

新春所感

—人生100歳時代を迎えて—

日野病院名誉病院長 玉井 嗣彦



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、晴れ晴れと希望に満ちた新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は鳥取大学を定年退官後、日野路の日野病院に名誉病院長として赴任してから、早くも9度目の新春を迎えました。

昨秋には、鳥取県知事はじめ多数のご来賓の方々をお招きして、日野町文化センターで盛大に開催された日野町制施行50周年記念式典で、思いがけず「多年、地域医療の向上に寄与した」とのことで、景山亭弘町長さんからすばらしい感謝状を頂き、その荣誉に身の引き締まる思いをいたしました。その節にも申しあげましたが、地域医療の向上は私一人ではできません。今後とも医療スタッフあげて努力して参りたいと思いますので、関係各位の一層のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

1956年に国連が老人の定義を65歳以上と決めたとき、日本人の平均寿命は68歳でした。しかし、今では女性の平均寿命は86歳を越え、男性は80歳に近づいています。100歳以上の長寿者は50年前に全国で男女合わせて125人でしたが、昨年9月15日時点の厚生労働省の発表では4万399人（男性5,447人、女性3万4,952人）に達しています。ちなみに鳥取県は284人（男性40人、女性244人）で、19年連続で過去最多を更新中とのことです。

私は1936年1月2日生まれですので、新年早々満74歳となり後期高齢者に一歩ずつ近づいていますが、沢山の人生の先輩を目の当たりにして、まだまだ若輩と思うと同時に、長寿にあやかりたい気持で一杯です。

満98歳でなお現役バリバリでご活躍中の聖路加国際病院の日野原重明先生は、その人生訓のなかで、① 70歳になれば、新しいことを創める、また腹七分目に、② 80歳になれば、よく歩き、若い者と好んで接する、③ 90歳になれば、心の思うままに生きる、④ 100歳になれば、よい友を持ち、あるがままに生きる」と述べておられます。

私は日野原先生の設立された75歳以上の高齢者を対象とした「新老人の会・鳥取支部」のジュニア会員（65歳以上75歳未満）なので、時々先生にお目にかかる機会がありますが、ご本人は「しんどいけどな、仕事があるから幸せなんだ」と100歳までスケジュール一杯の手帳をかざして、健康で長生きするための秘訣を授ける講演活動に全国を走りまわっておられます。

凡人の私にはとても真似のできない人生ですが、これもまた人生であり、私は人生100歳時代も夢ではない今日、生かされている人生を生きる気持で、今後も機会がある限り医療活動に微力を尽くしていきたいと思っています。

今年もどうかよろしく願い申し上げます。



A. Tamai

(カットは玉井名誉病院長)